

「エレクトロニクス実装学会誌」原稿執筆の手引き

1. 原稿の書き方

「エレクトロニクス実装学会誌」への論文は、本会ホームページ (<http://jiep.or.jp/>) に掲載の電子投稿システムから投稿してください。

(英文論文誌 Transactions of The Japan Institute of Electronics Packaging への論文は、Eメールで投稿してください)

問い合わせ先：一般社団法人エレクトロニクス実装学会
学会誌編集担当宛て
〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-12-2
電話 03-5310-2010
Eメール：hensyu@jiep.or.jp

1.1 入稿の方法

① 本文

A4 判に、Word またはテキストファイルで提出する。一太郎は不可。

② 図表類

図表類についても、デジタルデータで提出する。

- (1) Word, パワーポイント, エクセル, イラストレータ, フォトショップ
- (2) (1) 以外は eps, pict, tiff のファイル形式に変換して提出する。

図の製作についてお願い!

- ・本学会誌のオンライン版は、カラーで発行されますが、冊子体はモノクロ印刷になります。図表をカラーで作製した場合は、モノクロでプリントアウトし、黒、灰色の濃淡、白の色の区別で、十分内容を表現・識別できるようになっているか、確認してください。
- ・図やグラフ等のバックには色や灰色を使わず白にしてください (印刷ときれいに出ません)。
- ・カラー印刷を希望する場合は別途料金を申し受けます。「投稿規程の運用細則」第4条6.を参照ください。

また、文字入力時に下記の点に留意する。

- ① 英数字は、基本的に半角で入力する。
- ② 「, (カンマ)」「。(まる)」「・(中黒)」などは全角で入力する。

1.2 原稿には、通しページをふる。

2. 原稿の構成

2.1 研究論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 和文概要, 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する (本文と図表は別々にする。レイアウトされた形では提出しない)。
- ② 原稿の長さは学会誌 6~8 ページ目安 (14,000~19,000 字, ただし図表等を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 和文概要は, 本文を参照せずに概要のみで論文の趣旨が把握できるようにする。原稿量は 300 字以内。
- ④ 英文アブストラクトは, その論文で著者が強調したい要点について要約したものとす。原稿量は 100~150 語以内。
- ⑤ キーワードは英文とし, 5 項程度とする。
- ⑥ 本文は次の形式に従って執筆することが望ましい。緒言, 主部, 結論, 謝辞, 文献, 付録。このうち謝辞, 付録は省いてもよい。
- ⑦ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.2 総合論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 和文概要, 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する (本文と図表は別々にする。レイアウトされた形では提出しない)。
- ② 原稿の長さは学会誌 6~10 ページ目安 (14,000~24,000 字, ただし図表等を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 和文概要は, 2.1 ③ に準ずる。
- ④ 英文アブストラクトは, 2.1 ④ に準ずる。
- ⑤ キーワードは 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑥ 本文の形式は 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑦ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.3 速報論文

- ① 表題部 (3.1 参照), 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する。和文概要は不要 (本文が英文で書かれたもの場合は, 300 字以内の和文概要をつける。この場合, 英文アブストラクトは不要)。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 2~4 ページ目安 (4,000 字~9,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 英文アブストラクトは 2.1 ④ に準じ, 原稿量は 100 語以内。
- ④ キーワードは 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑤ 本文の形式は, 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑥ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.4 技術報告

- ① 表題部 (3.1 参照), 英文アブストラクト, キーワード, 本文, 図表を提出する。和文概要は不要 (本文が英文で書かれたもの場合は, 300 字以内の和文概要をつける。この場合, 英文アブストラクトは不要)。
- ② 原稿の長さは学会誌 3~6 ページ目安 (6,500 字~14,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 英文アブストラクトは 2.1 ④ に準ずる。
- ④ キーワードは, 2.1 ⑤ に準ずる。
- ⑤ 本文の形式は, 2.1 ⑥ に準ずる。
- ⑥ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.5 解説

- ① 表題部 (3.1 参照)。本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 4~8 ページ目安 (9,000 字~19,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 著者紹介を掲載する。書き方は 3.12 参照。

2.6 誌上討論

- ① 表題部 (3.1 参照), 本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 1~2 ページ (1,800 字~4,000 字。ただし図表を含む。図表は 1 点当たり 400 字 (大きく扱う必要のある図は 800 字) 程度として換算する)。
- ③ 学会誌第〇巻第〇号に掲載された何に対する討論であるかを明記する。

2.7 図書紹介・書評

- ① 表題部 (3.1 参照)。本文, 図表を提出する。和文概要, 英文アブストラクト, キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは, 学会誌 1/2 ページ (1,000 字程度。ただし

図表を含む。図表は1点400字程度として換算する)。

- ③ 原稿には紹介する図書名、出版社、発行年を明記する。

2.8 海外情報

- ① 表題部(3.1参照)、本文、図表を提出する。和文概要、英文アブストラクト、キーワードは不要。
- ② 原稿の長さは、学会誌2~4ページ(4,000字~9,000字。ただし図表を含む。図表は1点400字〈大きく扱う必要のある図は800字〉程度として換算する)。

2.9 読者の声および随想

- ① 表題部(3.1参照)。本文、図表を提出する。
- ② 原稿の長さは、学会誌1/2ページ(1,000字程度。ただし図表を含む。図表は1点400字程度として換算する)。

2.10 英文原稿

投稿原稿は、英文で執筆されたものでもよい。その場合、それのみで要旨が把握できる和文概要(300字以内)を必ず添付する。和文概要が添付できない場合は、英文概要でもよい(編集委員会が翻訳する:有料)。

3. 執筆要領

3.1 表題部

- ① 表題:和文と英文の両方を書く。英文表題については、冠詞、接続詞、前置詞以外の単語の頭文字は大文字で書く。ハイフンでつながれている場合も同様。
〈例〉Packaging Technology in Silica-Based Planar Lightwave Circuit
- ② 著者名:和文と英文の両方をフルネームで書く。英文の場合は、姓はすべて大文字、名は頭文字のみ大文字にする。
〈例〉Taro NISHIOGI, Hanako SUGINAMI
- ③ 所属機関名・所在地:和文と英文の両方を書く。所属機関名は公式の表示に従い、所属部署までを書く。著者が複数で、所属が異なる場合もそれぞれ書く。

3.2 見出し

大見出し(章に該当)は、左の端から書き、中見出し(節に該当)や小見出し(項に該当)は1字分あけて書く。文章は行を改めて書き、書き出しは1字あける。

〈例〉2. 高密度多層プリント配線板

2.1 製造技術

2.1.1 内層パターン形成

パターン形成法としては、現在、ドライフィルムであるが、将来は、液体レジスト露光法が一般的になると…

3.3 本文

- ① 本文は「である」調とし、できるだけ平易に表現する。専門用語以外は常用漢字を使用し、句読点は「, (カンマ)」, 「。(まる)」とする。
- ② 読みやすいように、内容の区切りで段落を入れる。
- ③ 文の流れがわかるように、読点(,)を1行に1, 2か所入れる。
- ④ 全体を通して用語を統一する。特に共著の場合は注意する。
- ⑤ 英語、カタカナの使用は最小限にとどめる。適訳のあるものは、日本語に直す。
- ⑥ 略語には、カッコ()で簡単な説明を入れる。
- ⑦ 次の言葉は、ひらがなを使う。
したがって、さらに、また、すなわち、および、ただし、あるいは、いろいろ、さまざま、それぞれ、われわれ、することは、するため、のように、~など、~らは
- ⑧ 送りがなは、新送りがなにする。活用語尾を送る。
起こる、組み合わせる、引き上げる、立ち上がる、1個当たり
- ⑨ 数字はアラビア数字を用いるが、文章になっている数字

は漢字とする(例:数100m→数百m)。

- ⑩ 引用文献の該当部分の右上に³⁾のように通し番号をつける。文献番号は本文の登場順にふる。

- ⑪ 本文内に図表の挿入位置を示す。

3.4 固有名詞

- ① 人名の敬称は日本人、外国人ともつけない。また、外国語の国名はカタカナ書きとし、地名、会社名、大学名、人名は原語のまま記載する。本文中の会社名等で(株)、(社)は省略する。

〈例〉	可	不可
	アメリカ	米 国
	イギリス	英 国
	フランス	仏 国
	Chicago 大学	シカゴ大学

- ② 専門用語になっている人名はカタカナ書きとする。
〈例〉ファラデーの法則、ガンダイオード、トムソン効果、など

3.5 専門用語と物質名

- ① 専門用語と物質名は原則として文部省編「学術用語集」と、JISの各種用語集に基づくこととする。

《注》

「プリント配線板」, 「プリント回路板」の語を使用し, 「プリント配線基板」, 「プリント回路基板」は使わない。

- ② 外国語名は、慣用呼称をカタカナ書きとし、本文中の最初に登場する部分でカッコ内に原綴りを示す。

3.6 単位

原稿に用いる単位はSIとし、必要なものには従来単位をカッコ書きで併記してもよい。

3.7 数式の書き方

- ① 文章中の数式は、 $x/3$, $a/(b+c)$, $(x+y)/(a-b)$ のように書き、

$\frac{x}{3}$, $\frac{a}{b+c}$, $\frac{x+y}{a-b}$ のようには書かない。

- ② 文章とは別に式だけを書く場合は、 $\frac{x}{3}$, $\frac{a}{b+c}$, $\frac{x+y}{a-b}$ のように書く。

- ③ 式を書く場合、式の記号の説明を必ず添える。

- ④ 数式の番号は通し番号とし、番号をカッコ書きとする。

- ⑤ 本文中で式番号を引用するときの書き方は「式(5)」等と書く。

3.8 英文字

変数、物理量にあたるローマ字は、イタリックとする。

3.9 図・写真・表の描き方

- ① 図表はA4判に1枚=1~2点で鮮明に描き、図および表の通し番号をつける。

- ② 図・写真、およびその中の文字は原稿をそのまま使用(原寸あるいは縮小)するので、大きめに描き、線の太さ、濃淡、文字の大きさに注意して作成する。

《注》: 図表は本文1段の幅で使用する場合は左右84mm以内、2段通しの幅で使用する場合は左右175mm以内となります。

- ③ 図の縦軸、横軸には、必ず軸の名称と単位を記入する。

- ④ 写真は図として扱い、図の通し番号をつける。

- ⑤ 図表には必ず表題をつける。表題は、図ではその下に、表ではその上に、左右中央の位置に置く。

図表に(a), (b)……がある場合は、それぞれについても説明を書く。

- ⑥ 図中の文字はゴシック体、表中の文字は明朝体とする。

- ⑦ 図表中の説明および表題は、研究論文、総合論文はすべて英文とする。その他の原稿は、国際性を考え広く理解さ

れるよう、極力英文とする。ただし、和・英文はどちらかに統一する。

- ⑧ 本文を読まなくても、図説だけでわかるように書く。
- ⑨ 機械類の図では、必要に応じて図中に実物の寸法を示す。
- ⑩ 顕微鏡写真には、その倍率が明確になるようにスケールを入れる。

3.10 文献

- (1) 引用文献は本文に登場順の通し番号とし、本文中該当部分の右上に³⁾等と番号をつける。
- (2) 1文献に1番号を対応させる。同一著者の別の文献についても、別番号にする。
- (3) 文献の引用にあたっては必ず出典を明記し、必要に応じて原著者の了解を得る。
- (4) 文献の著者名は日本語ならばフルネーム（例：山田太郎）で、英語ならば、名前だけのイニシャル（例：T.Yamada）で書く。
- (5) 文献の著者名は全員記入する。ただし研究論文、総合論文以外の場合は、～他、～et al.としてもよい。
- (6) 同じ文献を連続して引用する場合、研究論文、総合論文以外はibid.という表現等の省略を可とする。
- (7) 巻、号、ページの数字の前には、必ずVol., No., p. またはpp. をつける。
- (8) 文献の書き方は、次の通り。

① 単行本の場合（図書）

- 1) 編著者が1人あるいは項目別に分けられていない場合（編）著者名：“書名,” 出版社, 発行年, (シリーズ名, 番号)
- 2) 編纂物で項目が独立している場合（編）著者名：“論文名,” pp.〇〇-〇〇, 編纂名, 出版社, 発行年, (シリーズ名, 番号)

② 逐次刊行物

- 1) 雑誌の場合
著者名：“論文名,” 雑誌名, Vol. 〇, No. 〇, pp. 〇〇-

〇〇, 年月

2) 新聞の場合

著者名のある場合は著者名：“見出し（主題）,” 新聞名, 年月日, 版, 朝夕の別, 何面

③ その他

1) 辞書・事典類

項目名, 辞典・事典名, 出版社, 版, pp. 〇〇-〇〇

2) 便覧の場合

著者名：“項目名,” 編纂名, 便覧名, 出版社, 版, 発行年, pp. 〇〇-〇〇

3) 資料その他の場合

著者名：“資料名,” 資料番号, 発行所, 年月日, pp. 〇〇-〇〇, その他

4) ウェブサイト

著者名：“資料名,” [Online]. Available: <http://Website URL>, Accessed: 年月日

3.11 脚注

脚注は本文の該当部分の右上に^{*1}……とつけ、当該原稿部分の下に注記内容を記述する。

3.12 著者紹介

研究論文・総合論文・速報論文・技術報告・解説は、共著者を含む全著者の紹介を掲載する。1名分の文字数は22字×8行以内（名前以外の分量）。記述項目については各著者に一任する。また、顔写真も掲載する。

ただし、著者の希望により「著者紹介を掲載しない」「紹介文は掲載するが顔写真は掲載しない」などあればその通りにいたしますので、投稿の際にご連絡下さい。

4. お願い

・企業PR、製品PRなどと誤解をうけるような表記を避けていただくよう、お願いいたします。